

〇〇新スタッフ紹介〇〇

坂井 三郎 (センター客員研究員)



2001年10月より、汽水域研究センターに客員研究員として赴任することになりました。私は、大学の学部生の時に、沖縄の海に魅了されて以来、琉球列島のサンゴ礁堆積物に関する研究を進めてきました。琉球列島には、美しいサンゴ礁が広がっています。それらが、いつ頃から造られはじめて、どのようにして現在の状態に至ったのか。私は、その疑問を解くために、琉球列島に分布する第四紀のサンゴ礁堆積物を対象として、様々な研究を試みてきました。特に、わずか1mmよりも小さな原生生物「有孔虫」の石灰質殻の酸素・炭素同位体比を道具として、当時の海洋表層環境の復元を行ってきました。その結果、琉球列島のサンゴ礁が第四紀中期のグローバルな気候変動（約90万年前頃を境にして、氷期と間氷期のサイクルが4万年周期から10万年周期に移行する）にリンクして発達してきたことが明らかになってきました。このような

研究はとてもおもしろいのですが、なにより、フィールドが琉球列島というところもミソでしょう。フィールドに行く度に、泡盛と沖縄料理を楽しみ、サンゴ礁を観察しながら海に潜ることができるのは、私にとって最高のひとときです。

さて現在は、海洋科学技術センターの固体地球統合フロンティア研究システム（IFREE）に所属し、汽水域研究センターとの共同研究「汽水環境における有機質地層形成と白亜紀黒色泥岩の起源に関する研究」の一環として研究を進めています。この共同研究は、汽水域を白亜紀（約一億年前）海洋の小規模なモデルとみなし、そこでの生物生産過程と地層の起源を理解することによって、白亜紀海洋環境の復元に応用しようという研究です。まだまだ、未熟者ですが日々精進していきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いします。

[illegible]

河合 小百合 (センター教務補佐員)



2001年8月より汽水域研究センターで教務補佐員としてお世話になっている河合小百合です。信州大学工学系研究科を本年3月に修了し、このたび松江にやってきました。

現在までに取り組んできた研究は、2.5万年前の始良火山の巨大噴火が古植生にどの程度の打撃を与えたのかを、火山灰層の上下の地層の花粉組成の差異を比較して明らかにすることです。学生時代には始良火山の噴出物を追って、奄美から東北地方までさまよったものです。暑い夏の鹿児島で試料採取と海水浴を同時進行させたことも、雨続きの宮崎の採砂場で溜め池にはまったこともあります。噴火の影響が保存されている地層の厚さはせいぜい数ミリにすぎないので、不安定な足場で冷や汗をかきながらケーキベラで慎重に地層剥がしをし、翌日筋肉痛で足腰立たなくなったこともありました。そのような苦労(?)をして明らか

になったことは、始良の噴出物の大部分は数時間で放出され、火口600 km圏内の西南日本の植生に壊滅的打撃を与え、800 km離れた中部地方にもかなりの影響を与えたということです。この始良噴火のような巨大なイベントが自分の存命中に起こらないことを祈ります。

センターでは穴道湖と神西湖のボーリングコアの花粉分析等を行う予定です。任期のめどは今年度いっぱいくらいです。短い間ではありますがどうぞよろしくお願いします。